

教育・保育の特色

◆発達連続性を考慮した教育・保育

1歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育を、個々の発達に合わせて考慮し保育します。

◆様々な年齢の園児の発達特性に応じた教育・保育

1・2歳の園児については、愛着心の確立を基に、健やかな心身の発達が健康的で、且つ安全に図られるようにします。また、3歳以上の園児については、同一学年の園児で編成されるクラスによる集団生活の中で遊びを中心とする園児の主体的な活動を通して、発達を促す経験が得られるようにします。

◆子ども主体の教育・保育

園生活は子どものためのものであり、子ども自身がよく見、よく聞き、よく考え、工夫し、楽しく充実したものでなくてはなりません。1人ひとりの子どもが意欲的に遊び、自己充実できるよう、自由あそびと設定保育をバランスよく取り入れています。

◆みんな違って、みんないい

当園では、1人ひとりの違いや個性を互いに認め合いながら、共に育ち、共に学んでいくことができるユニバーサル教育・保育の実践に努めています。心身に障害のあるお子さんと、そうでないお子さんが一緒に生活することで、障害のあるお子さんにとっては心身の発達を助長するメリットがあり、そうでないお子さんにとっては人と関わる力や思考力、豊かな感性、思いやりなどの心情が発達するメリットがあると考えています。子ども一人ひとりの発達に寄り添い、個々がもつ可能性を最大限に引き出し、生涯にわたって様々な人の中で自己発揮できる大切な力を育てています。

◆よい教育・保育はよい環境から

子どもを取り巻く環境は、幼児教育・保育の大切な要素です。その第一は、毎日子どもと接する職員、保育教諭です。1人ひとりの子どもを温かく見守り、子ども達が安定した心もちで生活できるように支援します。また、自らは人としての向上心を忘れず、相手を敬い、笑顔を絶やさず心豊かな人であらねばなりません。子ども達が生活する園は、清潔で明るく、心豊かに落ち着いて園生活が送れるところではなくてはなりません。そうした環境を作るため、全職員が一致協力しています。